

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・フェリー及び航空事業者による航路利用の促進に向けた取り組み支援に加え、国の臨時交付金を活用して緊急誘客事業を実施した。
②	・フェリー利用者の回復を図るため、フェリーターミナル内の検温器設置やフェリー内の大型空気清浄機設置・抗ウイルスコーティング塗布など、安全・安心の取り組みに対して助成した。
③	・大分空港への海上アクセスの実現に向け、運航事業者及び旅客ターミナル工事の設計者を決定した。 ・国内線では8年ぶりとなるPeach Aviationの新規就航により、成田線の利便性が向上した。
④	・一日乗降客数が3000人以上の駅のうち、R2年度は佐伯駅と大在駅のバリアフリー化が完了し、9駅中7駅が実施済となった。
⑤	・物流ネットワークの充実を図るため、国道217号平岩松崎バイパスなど、港湾へのアクセス道路の整備を推進した。
⑥	・増加する車両・貨物に対応するため、臼杵港の新フェリーターミナル等の整備を推進した。また、R2年度から国直轄事業により大分港大在西部地区のRORO船ターミナルの整備と、別府港石垣地区のフェリー岸壁の整備に事業着手した。
⑦	・大分流通業務団地において、卸売業や製造業等の2社に対して分譲を行った結果、全体の分譲率は78.7%(対前年2.6%増)となった。
⑧	・ポートセールスにより、他港利用貨物の大分港(大在CT)への利用転換を促進した結果、R2年度は、外貨の実入りコンテナは過去最高を更新し、30,052TEUとなった。 ・企業訪問や県内外セミナー開催により、R2年度は、RORO船利用促進助成件数が、8件増え18件となった。

【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(2年度事業)	事務事業評価	
		成果指標の達成率(%)	掲載頁
①② ③④	九州の東の玄関口としての拠点化推進事業	36.2	364
③	国際航空路線誘致・拡充促進事業	—	364
⑤	(公)道路改良事業	—	368
⑤⑧	ポートセールス体制強化推進事業	82.3	364
	東九州海上物流拠点推進事業	95.6	365
⑥	港湾整備事業	—	365
⑦	流通拠点整備推進事業	99.6	226

【VI. 施策に対する意見・提言】

○九州の東の玄関口としての拠点化戦略フォローアップ会議(R2.8)
・ホーバークラフトについて、移動時間を短縮するためには港へのアクセスが非常に大事。

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
C	<ul style="list-style-type: none"> ・九州の東の玄関口としての拠点化戦略に基づき、人の流れ・物の流れの拠点化を進めるための事業を実施する。 ・大分港については、R3年度から県事業で埠頭用地の整備に取り組んでいく。 ・別府港については、-5.5mフェリー岸壁の整備事業を推進していく。 ・大分空港の国際線については、韓国線の早期再開と定着のための利用促進、中国・台湾その他アジア地域からの路線誘致に引き続き取り組む。空港への海上アクセスについては、ホーバークラフトによる運航の実現に向けた取り組みを進める。 ・フェリー及び航空事業者の特性を生かした企画商品の造成を支援し、利用者回復を図る。 ・積極的に企業を訪問し九州の東の玄関口としての拠点化の進展に伴う大分流通業務団地の優位性をPRすることにより、早期完売を目指す。